



平成 27 年 10 月 23 日

各 位

上場会社名:コクヨ株式会社  
代表者:代表取締役社長執行役員 黒田 英邦  
(コード番号:7984)  
問合せ先責任者:経営管理本部 財務経理部  
統括部長 永井 琢也  
(TEL:06-6976-1221)

## コクヨグループ中期経営計画について

コクヨ株式会社(代表取締役社長執行役員:黒田英邦)は、2016年度から2018年度までの3カ年の中期経営計画『Value Transformation 2018』を発表しました。

### 1. 将来にわたる企業のありたい姿、3カ年における基本方針

将来にわたる企業のありたい姿を、『コクヨは、商品やサービスを通じて、より良い仕事や学習、生活(Quality of Life)のために、人々の創造性を高めていく価値を提供することにより、社会に貢献する Life & Work Style Company を目指す』としました。

そのために、3カ年の新たな経営の基本方針を、『価値創造にこだわる自己改革～Value Transformation 2018～』とし、顧客本位にこだわった価値創造を実現する“運営モデルの改革”と、中長期の持続的成長を可能とするための“収益体質のつくりこみ”に取り組みます。

### 2. 運営モデルの改革

どの事業においても、付加価値の向上を前提とした収益性の改善・成長にこだわり、メーカー、流通が顧客への価値を高めるために“全社一丸”となって、『シェアと粗利率』に取組み、中長期の持続的成長を担保する運営モデルを実現します。これにより、過去最高となる売上総利益率35%以上を目指します。

ステーションナリー事業の基本方針:

『NB商品のシェアと粗利率にこだわった改革により顧客への価値を高め続ける  
持続的成長を実現する』

ファニチャー事業の基本方針:

『差異化された新たな付加価値による業態進化を目指し持続的成長を実現する』

カウネット事業の基本方針:

『顧客の付加価値にこだわった“魅力的な第3極”戦略による成長の兆しを獲得する』

海外事業の基本方針:

『顧客の価値を捉えた成長と事業収益性の確保を両立させる自立化モデルを確立する』

### 3. 収益体質のつくりこみ

この3ヵ年で、経営効率の改善により、営業利益率5%以上を達成することにこだわります。事業部門と管理部門の業務の重複をなくし、管理部門が事業運営における効率化を推進することで、全社の管理・間接業務の大幅な生産性の向上を目指します。これによる直接部門でのリソース創出、生産性向上及び新価値創造に取り組むことで、高収益体質への転換に取り組めます。

### 4. 3ヵ年でのゴール、財務目標数値

今中期経営計画のゴールは、①『成長原資の獲得』として国内事業での営業利益150億円以上の達成、②『高効率経営の実現』として営業利益率5%以上、③『海外の自立化』として海外事業の収益安定化、としました。

2018年度には、売上高3,100億円以上、売上総利益率35%以上、営業利益率5%以上、営業利益155億円以上、の達成を目指します。また、主要財務指標の見通しとして2018年度ROEを5%以上としています。

なお、中期経営計画の内容に関しては、2015年12月期の決算公表と共にご説明させて頂く予定です。

以 上

#### 【本資料における注記事項】

本資料に記載されている業績予想、将来予測は現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。